



「いってまいりませう 車椅子でも楽々だねえ」

白光園デイサービスセンターでは、自宅からセンター迄安全運転で皆さんをお送りしてあります。車椅子の方でも、又寝たきりの方でも特殊なバスを利用して楽々乗車する事が出来ます。バスの中で迎の様子等を紹介させて頂きます。

「今日 何かおもしろいことあるかな？」



「足元に気を付けて、バスの中へどうぞ!!」



白光園デイサービスセンター

「わきあいあい」 デイサービスセンターの送迎バス



「ハイ デイサービスへ到着です」



「バスの中ではとても賑やかです、話も弾みます。」



「この大雪の中御苦労様です」

何時もお世話様に成りまして心から感謝致して居ります。デイサービスの職員の皆様様の御親切には頭が下がります。本日、紅葉狩りドライブのお知らせに心ウキウキしました。寒い為厚着の声かけなので冬支度で出掛けました。午後から雨降りました。晴天なによりと喜びました。私は紅葉狩りは初めてなので大変喜んで帰りました。頂上でのひと休み、喉が渇いたところに美味しいお茶とお菓子を御馳走になり、白鷹方面を眺め、記念写真を写して頂いたり、記念にいつまでも残る事でしょう。女性の職員の方が紅葉を一枚取って私の帽子に付けて下さいました。家に帰り娘二人に「あら婆ちゃん紅葉付けてもらったの、良かったネ。」と言われました。私も大事に大事にして帽子に付けておく事にしました。御親切な方だど何時までも思い出として残る事でしょう。今後もお世話に成る事でしょうから、ごきようしくお願いいたします。今日は本当に有難うございました。楽しかった紅葉狩りを思い出しながら床に入ります。

デイサービスを利用して 蒲生 しろ 丸川 三和子

介護保険制度が始まり、九月になりました。寝たきりになつたうちのあはあちゃんは、四月より月二回のデイサービスを利用して、段差の多い我が家では、ベッドから送迎車までの車いすによる移動は、とても大変です。天気の悪い時などはなさら、とても気を使つて送迎して下さい。利用日前日には、いつもセンターから体調確認の電話があります。「あはあちゃん、明日お風呂の日だからゆつくりお風呂に入つてきてね。」と言うと、「うん。」とか「はい。」と返事がありますが、当日になると同じ事を言つても、何の返事も返って来ません。職員の方がお迎えに来て、「おはようございます。お風呂に行きましょう。」と声を掛けて下さると、「はい。」と返事をし、車いすに乗せてもらい出かけていきます。その後は、寝具の洗濯、ベッドメーカーを大急ぎで済ませ、気分的にもつたりと私のほつとする時間です。午後四時頃になると、「あはあちゃんのお帰りの時間です。」お風呂に入つていい香りするね。お風呂に入つて良かったね。JUMPして、「うん。」と体中さつぱりとなつた、ご機嫌な、あはあちゃんの返事が返ってきます。

激動の20世紀から21世紀へ

白光園の長寿お二人のこれまでの歩み

安藤ツギさん 103歳 安部喜七さん 98歳



安藤ツギさん 1920〜21世紀を生き抜いて 明治三十二年(一八九九)蚕桑村生まれ。



安部喜七さん 世紀を越えて (明治三十六年十二月二十五日生まれ)

当時としては珍しく高等科を卒業し、東京の浅草で看護婦(産婆)見習をしてきました。その後、地元へ帰り80歳まで自転車まで遠くまで反物商(背負い)に行きました。それから高玉芝居の髪結いもしていました。手先が器用で物差しも使わずに衣装を作るのが得意でした。また100人の仲人をしていました。



昭和18年 高玉芝居の髪結い

家庭では3人の子供の母親として、厳しく育てました。皆立派に育つてくれましたが、残念ながら二男は29歳で、主人は59歳で他界してしまいました。その後、私は大病を3回患いました。病院まで娘にリヤカーに乗せてもらい通院したり、医者にも見離されて死を覚悟しました。

娘さんより 母は、大変厳しい人でした。また何でも出来る人で、私には真似できません。母が80歳まで自転車に乗っていたように、私も76歳ですが山道を自転車に乗るし、雪おろしもします。母に似たのでしよう。これからもなるべく皆さんに厄介にならないで、元気で長生きしてほしいです。

ツギさんの 作品紹介

- ツギさんは10歳の頃からうたを詠み始め、おいたま狂歌や白鷹町老人音頭の作詞もされました。
● 風も嵐もふみこえて 平成元年祝えしわれ 明治の老女
● コスモスに 別れを告げる 赤トンプ



兵隊の時の写真

◎昭和 一九二八年(昭和三年)二十五才で結婚し六男一女をもうける。気丈で頑固で、曲がった事が嫌いな男義な性格であった。農業・土木関係の仕事で生計をたてる。又、元山(林業)の仕事にも従事し、牛を使つての木材(主はトノコ口・電柱材)の運搬をする。
◎明治 一九〇三年(明治三十六年) 鮎貝村高岡に三人兄弟の長男として生まれる。
一九一〇年(明治四十二年) 鮎貝尋常高等小学校に入る。
◎大正 学校卒業(十四才)後は農業に従事し福島に奉公に出る。その間も二十一才から兵隊にも二度徴兵される。

息子さんから父へ 頑固で我が儘、気丈で怖さ知らずの元氣一杯。竹を割った様な真つ直ぐな気性、明治気質の父親像そのままの父。怒りを買えば、裸で雪の中に投げられ、ゲンコツが飛ぶ厳しい躰。そんな反面出掛ければ必ず、お土産を手に欲しい物があれば、一寸待てば必ず充たしてくる。暖かく子煩悩な父。家庭を守る為に、身を粉にして家業に土木作業に出稼ぎに働きたった父親。今は、温かい白光園の皆様、甘え心豊かに余生を楽しんで下さい。こぼれる笑顔で介護に当たつて下さる白光園の皆様様に、限りない感謝を申し上げます。